

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

# EVANGELION

## CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

# 16

定価690円(税込)

2010/5/25

Mechanic Sheet

第8使徒サンダルフォン

医療機器

Character Sheet

赤木ナオコ

Tactics Sheet

第3使徒サキエル戦回

Timeline Sheet

ゼーレ、魂の座

Technology Sheet

シンクロ

Extra Sheet

用語辞典／企画書／  
トピックス



特製バインダー  
発売中!

DEAGOSTINI

総代理 deagostini.jp





第8使徒

サ  
ンダルフォン



火口にて発見された  
成体前の使徒

 UNKNOWN  
EIGHTH ANGEL  
**SANDALPHON**

Illustration by Hirofumi Ichikawa

## NERVが 捕獲を試みた使徒

使徒の生態は全く不明だが、唯一その一端を垣間見せたのがサンダルフォンである。成体になる以前の状態で発見された最初で最後のケースであり、羽化によって瞬く間に別の形態へ変態を遂げる様子は、生物の常識を大きく覆す。使徒は蛹が蝶になるように、この羽化というプロセスを経て望ましい能力・環境に適応した身体を得るとも考えられよう。

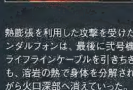
羽化後の戦闘力に特筆すべきものはないが、火口内の高温高圧という極限状況下において活動できる能力は他の生物にはないものであり、驚異に値する。浅間山火口にて、蛹のような状態で発見されたサンダルフォン。生きた使徒のサンブルを欲するNERVは捕獲作戦を展開、EVA式号機によって一時的に捕獲される。その後、急速に羽化して同機を襲うが、熱膨張を利用した攻撃により殲滅された。

伝承上ではサンダルフォンは預言者エリヤが天使に生まれ変わった姿ともいわれ、天使の牢獄である第5天マホンを支配するという。また、ユダヤ、キリスト教神秘主義では胎児を司るとされ、成体前の姿で発見されたことから名付けられたのかもしれない。

火口の溶岩内を自在に泳ぎ、式号機に襲いかかるサンダルフォン。視界の悪さと使徒の移動速度が相まって、式号機にはその動きを捉えられない。



サンダルフォンの攻撃手段は接近戦。活動にD型装備を必要なくされる特殊環境下のため、式号機は満足に動けず容易に捕獲された。



熱膨張を利用した攻撃を受けたサンダルフォンは、最後にケーブルのライフラインケーブルを引きちぎるも、溶岩の熱で身体を分解されながら火口深部へ消えていった。

### DATA

呼称：8th ANGEL

第8使徒

天使名：SANDALPHON

サンダルフォン

象徴：SYMBOL

胎児

能力：ABILITY

急速羽化  
かみつぎ

## 信じられない構造ですね (伊吹マヤ)

前面

FRONT



側面

SIDE

### 関連情報 RELATED INFORMATION

■ 浅間山地帯観測研究所

■ A-17

■ 局地戦用EVA-D型装備

■ 使徒

■ アダム



地震予知のため浅間山のデータを観測調査する研究所。火口内で使徒が発見されたためNERVによって完全封鎖された。



## サンダルフォンの体構造

魚のカレイとカンパリア紀の生物アマモカリスの特徴を複合したような姿を持つ成体。目が体の片側に寄っているのはカレイ(Righteye Flounder)の特徴で、体表は黒色素胞(メラノフォア)による保護色を持つとも考えられる。また、左右の飛び出したふたつ突起物は広視角の目で、アマモカリスの特徴といえる。

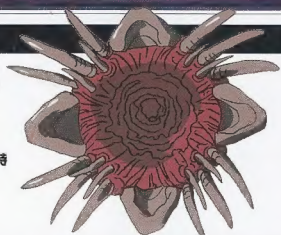
鱈のような前化前の状態時は、ヒトの胎児に似た姿をしているサンダルフォン。この姿は進化バースタイル内の、保存されたアダムとされる物体と類似している。

ANALYSIS PATTERN: SC0000 TYPE: BLUE



### 1 高温高圧下で開口口

円形の口はアマモカリスの器官に似ており、かみついたものを体内に取り込む仕組みと思われる。なお、滑溜面での口の開閉が可動という、既存の生物には不可能な構造を持つ。



→口開閉時

### 2 手のような部位

長く伸びる蛇腹のような腕を持つ。その先にはエビの脚に似た器官が5本あり、「握る」という霊長類の手のような動作を行うことができる。これはアマモカリスの頭部前方に共通して見られる、突き出した1対の触手の進化形にも見られる。

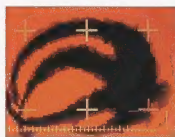


まるで握のような5本の触手によって、物を握むことが可能。



### 3 成体となった身体

羽化によって、火口内という環境下に適応した成体。溶岩流内の移動に適した魚鱗のようなヒレを持ち、高温高圧に耐える強固な外皮を備える。なお、エラらしき器官の機能は不明。



試号機に捕獲された成体後、急速に羽化し、鱈のような状態ではヒトの胎児に類似する初期の胎芽に類似した姿のものが入り際に影響し、全く別種の姿へ変わっていく。その変態速度も驚異的な速さである。



高温高圧下の極限状態で活動できるほどの身体構造を持つため、A.T.フィールドを中和していても、並の兵器では——高圧法置動を発生させるプログレッシブ・ナイフでもさへ——刃が立たないほどの硬度を誇る。

## サンダルフォンの活動記録

成体前の鱈のような状態のサンダルフォンは、浅間山火口内の深度1,300m付近にて発見された。捕獲作戦に打って出たNERVではA-17を発令。火口内にダイブしたD型装備の試号機によって、使徒は深度1,780m付近で捕獲される。しかし、直後に羽化を開始したサンダルフォンは成体となり試号機を襲う。同機を捕獲してかみついた使徒は、プログレッシブ・ナイフをものどもせず有利に戦うが、熱膨張を思いついたセカンドチルドレンの機転により冷却液を口内にねじ込まれ、温度差で強度に脆さが生まれたところに、プログレッシブ・ナイフの一撃を眼部に受け殲滅された。



鱈のような状態の際に、試号機のキャッチャーによって一時捕獲される。しかし、同機が浮上し捕めると羽化を開始して成体となり、試号機へと襲いかかる。



冷却液の急速な温度変化による体構変化は、使徒に劇的な効果を与え、温度差で脆くなり、硬度が落ちたところにプログレッシブ・ナイフを受けて殲滅された。

### サンダルフォン殲滅記録

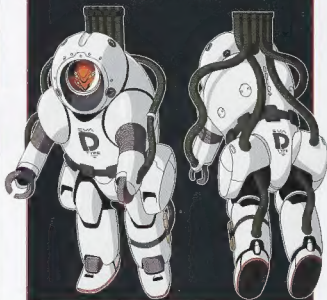
浅間山火口にて発見される  
 ▶ 捕獲される  
 ▶ 試号機により  
 ▶ 急速に羽化を開始  
 ▶ 試号機と交戦  
 ▶ 熱膨張を利用した攻撃を受け活動停止  
 ▶ サンダルフォン殲滅



## 特記事項

### 局地戦用EVA-D型装備

耐熱耐圧耐核防護服。ライフラインケーブルを兼ねた5本の冷却液循環パイプは、それぞれ胴体、左右の腕と脚に用いられ、膝部の熱交換ジェネレーターでも機体を冷却している。装甲は強固だが冷却液循環パイプは脆く、サンダルフォンの力で破壊し、耐熱処理によって左脚ごとバジリされた。なお、火口内にダイブする際は、いつでもバジリ可能な沈降用バラストを胴体に装備している。





MAGIを  
生み出し



ゲヒルン



赤木ナオコ

NAOKO AKAGI

謎の死を  
遂げた科学者





## 個人情報

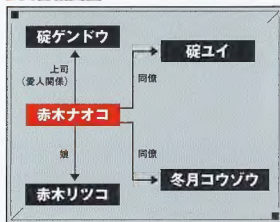
名前	赤木ナオコ
年齢	不明
国籍	日本
生年月日	不明
血液型	不明
所属	ゲヒルン

バイオテクノロジーと電子論理回路を活用した第7世代コンピュータ、人格移植OSを搭載したコンピュータシステム「MAGI」の基礎理論を構築し、本体の開発をも手がけた人物——、それが赤木ナオコである。公にはされていないものの、当時より推進されていたEVA零号機の開発にも携わっていたとも言われており、NERVの創生にも携わった重要人物である。

当時、天才科学者として非常に著名な存在であり、NERVの前身となる組織、ゲヒルンの主要メンバーのひとりであったナオコ。彼女は自らの「科学者」、「母親」、「女」としての3つの人格をそれぞれコンピュータへ移植し、2010年に見事システムを完成させた。しかし、彼女はその後、作業中の転落事故により命を落とすとされている。死の理由は自殺とも噂されているが、その真相は明らかにはされていない。なお、彼女は現在E計画の責任者を務めている赤木リツコの母親でもある。短い期間ではあったが、同時にゲヒルンに在籍していたこともあった。

現在のNERV内に、ナオコを直接的に知る人間は決して多くはなく、彼女について語られることも少ない。しかし、彼女が人格移植OSを完成させたという事実は、MAGIシステムはいうまでもなく、EVAの開発にも大きく影響している。生体コンピュータ研究のエキスパートである彼女の存在がなければ現在のNERVは有り得なかったといっても過言ではない。今は亡き存在ながら、その天才的な頭脳と技術をもってNERV設立に最大の功績を残した人物であるといっても差し支えないだろう。

## 人物相関図



- 関連事項
- MAGI
  - 碓ゲンドウ
  - 碓ユイ
  - 赤木リツコ
  - ゲヒルン



人格移植OSを搭載した初の第7世代コンピュータ。独立した3基の個人人格同士の間によって最終操作を決定する。

## 表情



—科学者らしい性質の持ち主といえるナオコは、このように確定的な確信を裏付けていることが多い。しかし、それは善悪から思考を絞せられないための手段とも考えられる。



職場では張り詰めた表情を見せることも多いが、娘であるリツコと会話をするとその表情が緩んでいるようにも見受けられる。



—やはり親子だけに、リツコとは顔立ちがよく似ている。目の眉、やや切れ長の瞳などが特にその類似性を感じさせる。ひととき目をひく藍色の口紅を使用している点も、共通項のひとつといえるだろう。



！後悔とも羞恥とも取れる表情を浮かべるナオコ。時には感情を露わにすることもあるが、彼女のこういった表情を引き出す事象は少ない。

## 私服

## 背面

—ゲヒルンで研究に明け暮れているナオコは、常時とわいていほど白衣に身を包んでいる。その佇まいは、科学者としての貫禄のようなものを感じさせる。



## 正面



一年劇に相応しい、落ち着いた雰囲気を持っているナオコ。服は黒グリーンに黒と、金体的にシックなイメージの色合いを好んでいるようだ。



地球を去るナオコだが、ゲンドウの前では普段と違う色のハンカチにアクセサリーを付けている。恐い表れかもしれない。

キャラクターシート

Character Sheet

赤木ナオコ

Sheet

17

NAOKO AKAGI

# 赤木 ナオコ

## という存在



ナオコの前に現れ、遠くを飛んだというレイ。幼い相手に、大人らしく、優しい笑顔を見せてあげて話しかけるナオコ。しかし、その気遣いは真逆にも裏切られることとなる……。



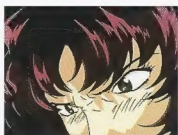
異性関係に対し冷めた見解を要するリツコに、「自分の幸はまで運しちゃうわ」と思っているナオコ。自らの不器用な生き方を重ね合わせた上での忠告だったのかもしれない。



一ナオコが時折見える表情のひとつとして、これらのように「距離や不安を感じさせるものがある。そしてその表情が色濃く、肉体的な不安定さが露見した表情といえるだろう。

ナオコは、MAGIシステムに託したとおり「3つの顔」を持つ女性である。つまり、科学者、母親、女としての顔だ。しかし、これらに折り合いを付け、共存させることは難しかったようである。科学者としての自分を前面に出せば、母親としての自分は疎かになってしまい、女としての自分を貫けば没頭する研究に私情が挟まれることとなってしまふ。こういった、相反する感情を持ち続けていた彼女は、常に危うさを内包している存在でもあった。

大きな功績を残したナオコだが、結果的に科学者、母親、女としての顔を完璧にこなすことはできなかった。まず、研究に没頭するあまり、母親としての幸せも女としての幸せも得ることはなかった。また、研究の成果であるMAGIの実働を見届けるともなく最期を迎えたため、科学者としても幸福者であったとは言えない。そういった3つの自分のせめぎ合いが彼女の弱さを生み出し死へと追いやってしまったのであれば、それは過分な才能を持っていたための不幸であるともいえるだろう。



ナオコの中に存在する3つの人格が均衡を崩した瞬間。ユイの面影を浮かべたレイの言葉によらぬといえ、幼い子供の言葉に刺されるほどに危うい感情を抱えていた。



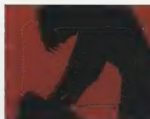
MAGI開発の部屋、ナオコはひとり地下に暮らしていた。彼女ひとりだけのシステムを生み出したという事実は驚愕に値するといえよう。

使徒認識のためのパターン解析を始めとし、対使徒戦における作戦の検討、さらには第3新東京市の市政までも担うMAGI。様々な案件に対し、3基のスーパーコンピュータによる合議制で判断が下されるシステムとなっている。そのため、時に3基が対立する「ジレンマ」と呼ばれる状態に陥ることがある。ただ、この設計ミスともれるジレンマはナオコの手により意図的に残された「人間らしさ」である。長年、生体コンピュータというものに携わり、MAGI開発者としてコンピュータに人格移植を考えたナオコは、コンピュータが人間に近づくことの可能性を信じていたのではないだろうか。

# MAGI 開発者 としての役割

# 謎の死

## を遂げた理由



幼いレイの口から聞かされた「ばあさんは、死んだ」という言葉は、女としてのナオコの弱さを失わせながらも十分過ぎるものだった。



ゲルグンが特務機関NERVへと移行する前夜に、転落事故にあったとされているナオコ。その一瞬一瞬に飛び散った血痕と、ナイフで傷められた死体の跡が凄まじい。

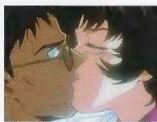
謎であるとされているナオコの死だが、いくつかの理由が推測される。まずは最大の理由と考えられるのは、想いを寄せ、肉體関係まで結んでいただけの碓氷ドウが、実は自らを利用していただけであることを知ったことだ。さらにそれを、ゲンドウの亡き妻、碓氷ユイの面影が強く見られる幼い綾波レイにより知らされたというもまた、大きな要因のひとつであろう。レイの言葉により逆上したナオコは彼女を殺殺し、自らも命を絶つこととなったのだろう。ナオコの女としての部分が、自らを殺したともいえるかもしれない。女としての人格が移植されたカスパーの元で発見されたというのも象徴的である。



# 碓 ゲンドウ との関係



ゲヒルンのトップであるゲンドウと、主だった計画の研究、開発を一手に引き受けるナオコ。私情はともかく、組織の人員としての信頼関係はあったと考えても良いだろう。



口付けを交わしても、ゲンドウは無表情に容を見つめている。ナオコの開朗したような表情とは対照的である。この相違を挙げても、その感情の差がはっきりと見て取れる。

ゲヒルンの所長を務めていたゲンドウとナオコは、上司と部下という関係に留まらない関係まで結んでいた。ただ、そういった関係を持つに至った経緯や、ユイの生前に始まったことは不明である。

ふたりの関係が続く最中、ナオコはゲンドウが妻を忘れられないことを察したような発言をしている。別の女性を愛しているか知りながらも関係は続けたい程に、彼女がゲンドウに対し相当深い恋慕の情を持っていたことがわかる事実である。しかし、一方のゲンドウは、ナオコを科学者として利用するためだけに関係を結んでいた。その相違が、結果としてナオコの死へと繋がることとなる。



ゲンドウとユイの子供であるシンジを、保護しながら育てて見守るナオコ。そこにどういった感情が込められていたかは不明である。

ナオコがゲンドウに思慕を寄せている以上、彼の妻であるユイは、裏向きはどうかナオコにとっては邪魔な存在でしかなかったと考えたに違いない。事実、ユイがEVA初号機との接触実験により初号機に取り込まれた際（実質的には死去したものと同等）、それが自らの願いであったと述べていた。

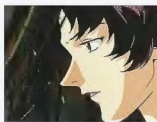
しかし、ゲンドウの中からユイの存在が消えはしなかったことを考えると、ナオコの願いは叶ったとはいえないだろう。ユイの面影を持つユイの言葉によりゲンドウが自らを用済みと言っていることを知り、結果的に命を落とすこととなったナオコ。彼女は、最終期で女としてユイに敵うことはなかった。

# 碓 ユイ との関係

ナオコとリツコは、母ひとり娘ひとりという家族構成であったことも影響してか、共に過ごす時間が少ない割には、それなりに仲の良い親子であったように思われる。しかし、実際のところはやはりそれなりの距離があったようだ。ナオコはリツコに手紙を出す際、放任していたことに責任を感じているかのような記述をしている。一方、リツコは母の名前の重さを感じていたと述べている。しかし、ナオコの死後にその跡を継ぎ、MAGIシステムのセットアップと運用を行なえる存在は、リツコ以外には有り得なかっただろう。それは同じ科学者として驚がれた、母と娘の絆ともいえるかもしれない。



MAGIの基礎理論構築者に動員し、それを見つめる未だ高校生のリツコ。その表情にはあまり感情は表れていないが、母の背中越しを感じていたのかもしれない。



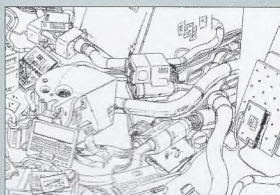
放任を決め込んでおきながら母親面をしようとする自分に気づく。傘そのまゝ彼女を愛するナオコ。そこには希薄な親子関係への自責や後悔といった感情が見受けられる。

# 赤木 リツコ との関係

## 特記事項

### MAGIに込められたものの意味

開発者であるナオコ自身の人格が移植されたMAGIシステム。科学者としての人格はメルキオール、母親としての人格はバルタザール。そして女としての人格はカスパーへとそれぞれ搭載されている。これら3基のうち、カスパーはナオコにとって特別な存在であったとも受け取れる。何故なら、第11使徒イロウルのMAGIをハッキングした際に最終まで守り抜かれたのも、リツコがNERV本部の自衛を固った際唯一肯定したのも、カスパーであったからだ。これらの事実については、生前に自分の存在を3つの側面から選ぶとできなかったナオコが、死後になっただとしての自分を選んだ結果という見解も可能だろう。



↑MAGI内部

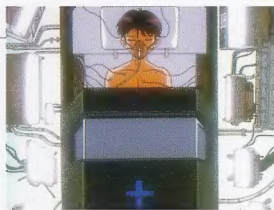


MAGIが完成した日、ナオコはそこに込められた意味をリツコに語っていた。直後に彼女が命を絶ったのは偶然だった。まるで讀書のようでもあった。

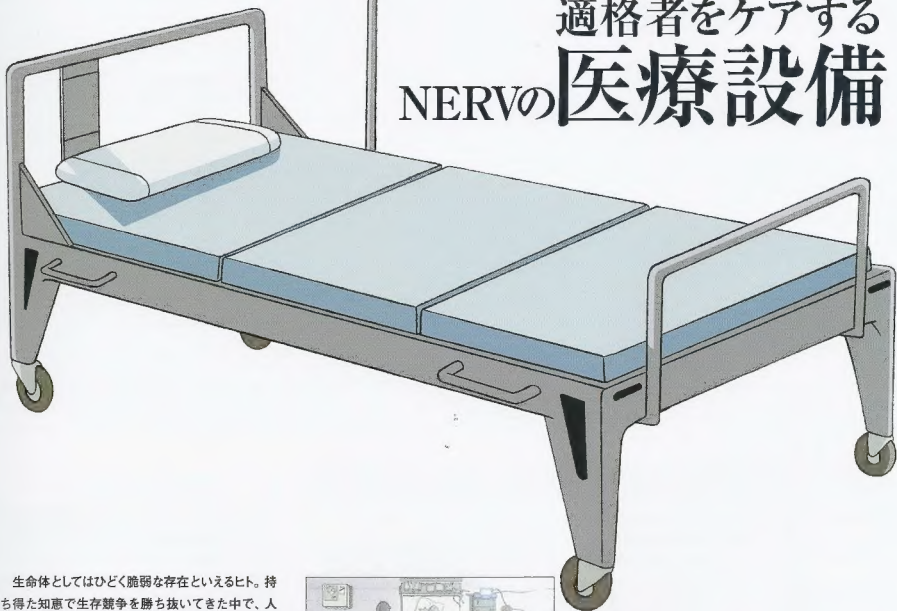


最後の戦いでカスパーが真切り、リツコの手によるNERV本部の自衛は失敗した。結果的にナオコは、自身の娘よりも、愛した女性を選んだともいえるだろう。

# 医療機器



## 適格者をケアする NERVの医療設備



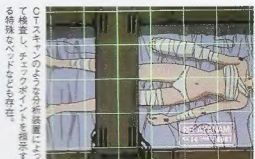
生命体としてはひどく脆弱な存在といえるヒト。持ち得た知恵で生存競争を勝ち抜いてきた中で、人間の健康維持や回復を行なう医療行為こそ、その生存を助けてきた大きな要因のひとつといえよう。その医療を支えるのが技術であり機器類である。

オーバーテクノロジーの産物といえるEVAを開発、運用しているNERVは、生体工学に関しても時代を先んじている。その技術は医療にも応用されていると考えられ、肉体的な負傷への対応だけでなく、ICUのカプセルを始め、優れた医療機器や設備の開発にも一役買っていることだろう。

NERV本部内には人材、技術、設備などが揃った中央病院があり、総合的な検査や治療が可能。特に脳神経科は、EVAとの神経接続を行ない、常に精神汚染の危険が付きまとう適格者のためにあるといっても過言ではない。そのため、脳神経に関する医療機器は最先端のものを揃えていると推測される。



心身共に耗弱したセカンドチルドレンの病室。心電計などの医療機器が常備され、患者の容態急変に備えている。



# Medical Equipment



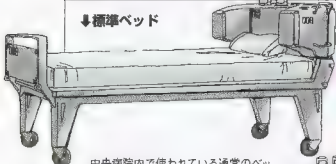
## 医療ベッド

検査用の最先端ベッドから単純な作りのベッドまで、用途によって複数種類の医療ベッドを用いているNERV本部の中央病院。主に介護用として使われる角度調整可能なギャングアップ式など、多機能タイプのベッドは見られない。基本的には本部勤めの人間が一時的に使うもので、長期入院は想定されていないのかも知れない。なお、非常時にスムーズな移動を行うためかキャスター付きベッドがほとんどで、動かしやすいように部屋も広いようだ。

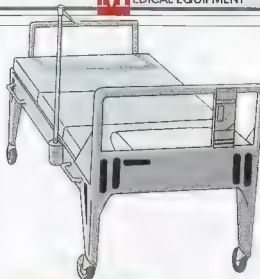
### 患者のパーソナルカード

患者の医療情報を記録したカード。ベッドには必ず付けてあり、使用する医師の手前には、患者の顔や服用タイミングなど必要事項が記載されていると思われる。

### ↓標準ベッド



中央病院内で使われている通常のベッド。簡易ベッドとは違い、ガッツリとした作りになっている。それぞれ番号で区別されており、患者の頭部に位置する7の字型の部分には薬を入れるスペースが設けられているが、牽引用の取手も存在。なお、パーソナルカードもこの部分に付けてある。



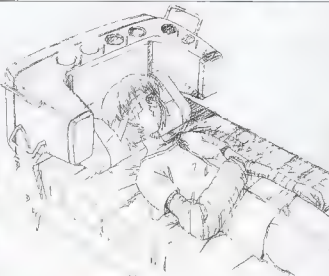
←簡易ベッド



緊急使用キエルの簡易ベッドに、薬箱を載せたファーストアイドレンを薬箱のために使われた。汎用性のボールを固定する部位があり、左右には針や針の取手があまる。



緊急使用キエルの簡易ベッドに、薬箱を載せたファーストアイドレンを薬箱のために使われた。汎用性のボールを固定する部位があり、左右には針や針の取手があまる。



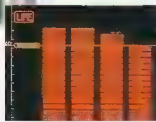
## ICUのカプセル

中央病院内の緊急処置室にあるICU (Intensive Care Unit) のカプセル。高度な治療や容態の管理を必要とする患者の集中治療を行う。

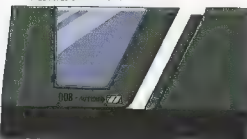


診療室からダメージのファーストアイドレンを受けたサードチルドレンは、緊急が甚しく心も戦慄とる。その際に ICUへも搬送され治療を受けた。

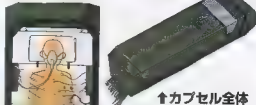
容態をモニターしており、血圧や心音など4系統の生命活動値がセーフティラインを越え、患者の意識が戻ると自動的に扉が開く仕組み。



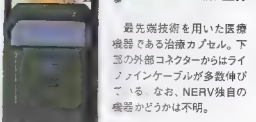
### ↑接続部のアップ



### ↓カプセル使用時



### ↑カプセル全体



最先端技術を用いた医療機器である治療カプセル。下部の外部コネクタからはライフラインケーブルが多数伸びている。なお、NERV独自の機器かどうかは不明。

## 特記事項

### 病院のワゴンと食事

医薬品や食事の配給などには、錆びにくい緑色のステンレス製ワゴンが使われている。なお、緊急処置室での治療を終え電機を回復したサードチルドレンに対し、ファーストチルドレンで天然の薬草は、調剤室で出てくる野菜の朝食と報告する。



ファーストチルドレンが通ってきた実室は、プラスチックの容器に入った色の固形食料とポテトサラダ、目玉焼き、パン、パックのシモザケが並ぶ。



### 関連事項

- 中央病院
- 緑流レイ
- 硬シレンジ
- 車道:アスカラングー
- 鈴屋トウジ



NERV本部内にある中央病院 EVA感染症科の病室。ここでは、この病室を利用して、検査、治療を受けることが多。

タクティクスシート

actics Sheet

第3使徒サキエル戦

Sheet

05

THE THIRD ANGEL SACHIEL ANNIHILATION OPERATION

Illustration by Tomotaka Kurosawa



15年振りに出現した使徒。おし、NERVは国際的機密プロジェクトを組み製造していた対使徒機動兵器である人型エヴァンゲリオンを初めに出撃させた。一度は戦地に追いつかれた初号機ではあったが、突如暴走。凄まじい攻撃をもって第3使徒サキエルを圧倒する。2機の巨人が衝突するその瞬間、人類が初めて目にした。驚異に震らさるるよと異形の光景であった。

## 人類史上初となるEVAの実戦投入と使徒との戦闘

### エヴァンゲリオンの起動、およびEVA初対使徒戦

#### TACTICS SHEET

セカンドインパクト後、予想された使徒襲来に備えて、14年の歳月と巨額の前算を投じて極秘裏に建造が進められてきた汎用型決戦兵器エヴァンゲリオン。このカウンターウェポンの初の実戦投入は、15年ぶりに出現した使徒である第3使徒サキエルを迎撃した「第3新東京市街戦」であった。

当初、サキエルの迎撃には、国連軍が当たっていたが、通常兵器での殲滅は不可能に近く、結局、作戦の全指揮権はNERVへと委譲される。当時、NERV本部は零号機と初号機、合計2機のエヴァンゲリオンを所有していたが、零号機は起動実験の失敗により凍結中。よって、必然的に初号機を投入することになるが、初号機はパイロットとのハーモニクステストすら行なわれていない状態であった。また、初号機のパイロットは訓練すら受けていない素人であり、迫り来る使徒に対して万全の備えど

ころか、その起動すら危ぶまれる状況であった。もともと、EVAの起動確率は限りなく0に近いとされ、そもそも第3新東京市街戦以前には起動実験の成功例すらなかったのである。しかし、初号機のパイロットは、初めての搭乗とは思えぬシンクロ率を記録し、初号機の起動を成功させる。さらにシステムも安定するなど驚嘆すべき適性を発揮、ついにEVAが実戦投入されることとなる。

かくして、史上初のEVA対使徒の戦闘が現実のものとなったが、ハンガーからリフト・オフした初号機は歩行するのがやつの状態であった。当然、初号機は使徒の一方向的攻撃を受けることとなり、反撃は歩行することなく完全に沈黙してしまふ。この時点においてパイロットの生死は不明(救出も失敗)、初号機的全システムダウンと作戦継続は不可能に思われた。しかし、驚くべきことに初号機は突如として再起動を果たす。が、初号機はパイロットの制御下になく、いわゆる暴走状態となっていた。初号機は何かから解放されたように圧倒的な能力を発

揮、瞬時に形勢を逆転させる。最終的に使徒は自爆して戦闘は終結。初号機は勝利を収めた。また、爆発に巻き込まれながらも初号機に大きな損傷はなく、戦闘後にはパイロットの無事も確認されている。

EVAの初起動、対使徒戦の勝利と結果こそ出たが、サキエルにおける初号機はほぼ制御不能であったことも否めない。また、突然の再起動と暴走、および破壊的な戦闘行動についての根本的な原因は解析できておらず、今後も問題を抱えたままの運用が続くこととなる。しかし、この戦闘データは確実に蓄積されており、のちに出現する新たな使徒との戦いにつながる一戦となつたといえよう。

#### RELATED MATTERS

第3使徒サキエル  
EVA初号機  
サードゲルドレン  
到達軍  
NERV



15年ぶりに人類の前へ姿を現した使徒。自己修復と合わせ、能力の追加増強も可能。両腕には光の輪が装着されている。



第3使徒サキエル戦術シートの要約

史上初のEVAの実戦投入となったサキエル戦は、NERVにとっても初の激戦であり、本部周辺の避難システムの稼働率は7%台という低さであった。加えて、初号機への武装もまだ完了しておらず、初号機は武装を施されないままでの出陣となった。

TACTICS SHEET

1 初号機の出撃

初号機の発進シーケンスは迅速に行なわれ、約120秒(エントリープラグ挿入から機体の射出口への移動までの所要時間)で出撃。初号機は暴行にこそ成功したものの、仮攻する目標を前にして転倒してしまう。

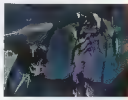


高さ出撃した初号機だったが、わずかな暴行しかできません。



2 EVAと使徒とのファーストコンタクト

転倒後、使徒に頭部を斬られた初号機は、防御機能が作動せず、使徒の攻撃にさらされる。使徒の腕部より発射された光の槍が90度に逸って右目部分を直撃。頭蓋を貫通され、さらにビルに激突した。

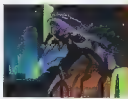


使徒に斬られた初号機は、高す術なくの攻撃を受ける。



3 初号機の再起動

ビルまで飛ばされた初号機は、パイロットとの神経接続が切断。活動維持に問題が発生し、エントリープラグの射出信号も受け付けず沈黙する。だが、突如として再起動し、無制御下での活動＝暴走を開始した。



不気味な咆哮を上げ、猛烈な使徒に向かって動く初号機。



4 初号機の反撃

初号機は目標へと突撃。破損した左腕を復元し、さらにA.T.フィールドを発生させて使徒のA.T.フィールドへ侵食。使徒は発光線を放ち応戦するも効果なく、初号機は敵の腕部を引きちぎり、続けて敵の胸腹を打ち穿った。

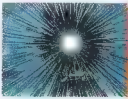


暴走した初号機は、使徒のA.T.フィールドを暫息に打ち穿る。



5 使徒の自爆

ビルごと吹き飛ばした目標を、初号機は縮み伏せ撃打。繰り返して使徒の鋭角な部位をもぎ取り、それを用いてコア部分に攻撃を加える。使徒は初号機に巻きつき自爆。しかし、初号機は健在であり、戦闘は終わる。



末期を待ったかのように、使徒は最後の手段として自爆した。



「第一次直上会戦」とも呼ばれる使徒との決戦は深夜に行なわれた。経験値0のパイロットが起動不可能と思われていた初号機を起動させたことは賞賛すべき事案であるが、戦闘は困難を極めた。だが、初号機の暴走により敵を殲滅。最終的にはEVAの有効性を示す結果となった。が、初号機は中破。NERV側の被害も大きく、葛城一尉は「苦渋の戦闘であった」と報告書に記している。なお初号機の補修費用は、修理中であつた零号機のものと同わせて、国家が傾くほどの額であつたと言われている。

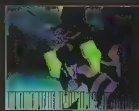
技術調査

EVA初号機の起動

サキエル戦にて、初めてEVAに搭乗。当初は搭乗のシミュレーションは、専断的状況と同一で一切なく、しかもアツタの搭乗未経験であったにも関わらず、シミュレーションは搭乗者ゲルハーマニクスも正常値を保持していた。これは、起動率0.0000000001%とされた初号機を起動させるにはどの程度との確率かと、EVAに対する潜在的な適応能力の高さを物語っている。また、格納庫内での初号機自爆、緊急脱出、予備システムを保護したとの情報もある。



初号機に初めて搭乗したサード子ドレンの姿。ゲルハーマニクスは、驚くほど高い値を示していた。



未経験ながら、サード子ドレンは初号機の暴行を成功させる。それだけで高賞賛すべき事案である。

A.D.2015

## 03 人類補完委員会 特別招集会議が開かれる

委員たちの追及をゲンドウは否定した。どことも知らぬ場所でも8人の男が語り合っていた。人類補完委員会の進々と硬ゲンドウである。委員会のメンバーは、これまでの惨状との攻防を改めて見直しながら、数々の不安要素を指摘してはゲンドウに苦言を呈する。特に彼らが確認しなかったのは、第11使徒がNERVへ侵入したという情報の真偽だった。「もし接触が起これば、すべての計画が水泡に帰したところだ」だが、ゲンドウはあくまでもそれは誤解に過ぎないと述べる。



使徒11使徒の姿は再び記録をたどる委員たち。彼らはこのように、ゲンドウを批判する。



君の罪と責任は言及しない——議員のキールはそう言いつつも「だが君が新たなシナリオを作る必要はない」と釘を刺した。わかっています。すべてはゼーレのシナリオどおりに「感情を数に出さない」男でゲンドウは居る。

A.D.2015

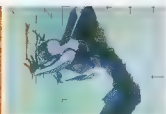
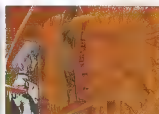
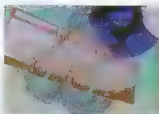
## 04 零号機、暴走

奇様な姿に呼応して零号機が暴走する

試験が第3次接続に移ったとき、シンジの頭に誰かのイメージが流れ込んできた。「あ、綾波？ 綾波レイ……綾波レイだよな、この感じ。頭を押さえるシンジ。いくつものレイのイメージが駆け巡る。そして最後に、目をぎよろつかせた不気味な姿が邪魔いっばいに狐がった直後、隣接した制御室にアラート音が鳴り響いた。「パイロットの神経」が次に異常発生！ EVAから吸食されたシンジに精神汚染が発生し、零号機が暴走をはじめたのだ。



綾波：違うか？ 胸中で「このままシンジに、襲いかかる」ってイメージを植えつけた。その後



制御不能になった零号機は暴走するよう、もがきながら、管制室の扉を殴りだし、ひびの入る扉を無気力に叩められ、ミサトが下げられと叫ぶ。その直後はまるでかつての零号機暴走事故を再現するかのような光景だった。

2015年

ゲンドウ、委員会のメンバーから非難される  
 人類補完委員会、特別招集会議が開かれる

レイとシンジ、機体相互互換試験に参加

レイ、機体相互互換試験を開始

# 新世紀年表

 WITH SERIES  
 DESIGNLOGY

## 第六期 ゼーレ、魂の座

人類補完委員会の別荘である「人類魂の座」に、ゲンドウと委員会のメンバーが招き寄せられ、特別招集会議が開かれる。ゲンドウは、委員会のメンバーから非難される。特別招集会議が開かれる。この会議は、ゲンドウの行動に対する批判が中心となる。委員会は、ゲンドウの行動がNERVの存続を脅かしていると考えている。ゲンドウは、この批判に対して冷静に返答する。彼は、NERVの未来のために、必要ならば犠牲を払う覚悟があることを示す。会議は、ゲンドウの決意を聞き、一時的に休会することになった。一方、NERVの制御室では、レイとシンジの機体相互互換試験が行われる。この試験は、レイとシンジの機体間の接続を強化するための重要なステップである。試験は、レイとシンジの協力によって成功裏に完了する。この成功は、NERVの未来に明るい希望をもたらす。











テクノロジーシート

Technology Sheet

シンクロ

Sheet

12

SYNCHRONIZE

Illustration by Takaya O



高容量の神経伝達物質を蓄積するニューロンは、神経系の損傷において、EVAの操縦者は原則として一機体につき1人しか存在しない。この構造は、EVAとの接続が1対1に制限できるかを物語っているといえる。

## シンクロ

## SYNCHRONIZE

人間の脳幹の無髄神経はA系、B系、C系の神経線系列から構成されている。特に中脳にある神経線から大脳新皮質へのびているA\*神経は重要な役割を果たしており、この神経が刺激されるとドーパミン、ノルアドレナリンといった神経伝達物質が分泌され、快感が生じる。ドーパミンは脳内覚醒物質で、脳を覚醒させて快感を誘い、創造性を発揮させる重要な神経伝達物質である。一方のノルアドレナリンは神経を興奮させる神経伝達物質で、覚醒、集中、積極性の発現や、痛みを感じなくするといった働きがあると共に、敵に遭遇するといった緊急反応の際に分泌され、交感神経を刺激。血圧や心拍数を高める作用がある。さらにA\*神経は脳中で神経系を通る唯一の神経であると考えられており、快感神経または恍惚神経とも呼ばれている。

EVAと操縦者の神経接続——神経を双方向に交流させて意思を伝達し、同調（シンクロ）を行なうためには、A系列の神経線——とりわけA\*神経が最も

重要とされている。ただ、このA\*神経には、接続において多すぎる伝達物質を吸収し、分泌量を厳密に調整するオートレセプター（自己受容体）が存在しない。そのため、過剰な分泌を抑制し、うまく働けば分泌量を一定に保つ「負のフィードバック」と呼ばれる仕組みが働かない。こういった神経伝達物質の抑制が掛からない箇所での神経接続は、精神汚染。さらにはEVAへの取り込みという危険が付きまわっているといっても過言ではない。無論これらの問題点はNERVも承知のことであると考えられ、制御神経による制御を行なっている可能性もある。ただ、NERV最高司令官であり、初号機専属操縦者の父親でもある碓ゲンドウは、初号機の暴走が予定通りの出来事であったかのような言葉を口にしている。使徒との戦闘において幾度となく暴走している初号機については、あるいは意図的にこの制御を行なっていないものとも考えられるが、その真意は不明である。

ちなみに、EVA各機にはコアと呼ばれるものが存在し、それぞれ固有の神経パルスのパターンを持っていると考えられている。操縦資格者は原則として「14歳の子供」に限定して選出されているが、NERV

が所有するEVAのうち、初号機では碓ユウジが接続実験に失敗し、初号機に取り込まれている。また、EVA試号機では惣流・キョウコ・ツェッペリンが操縦実験に失敗し精神汚染を受ける結果となっている。仮に碓ユウジたちが神経パルスのパターンに影響を与えているならば、その子供である碓シンジ、惣流・アスカ・ラングレーとEVA各機のシンクロは容易かったものと考えられる。開発当初から予め「使徒に対抗しうる戦力」に位置づけられていたEVAという存在を考察したとき、意図的に母親の魂が込められたコアを用意し、その子供を専属操縦者とすることで、安定したシンクロを可能とする——という構図を想起することも可能である。ただ、それが意図的なものであったかについては明らかになっていない。

RELATED TOPICS	
EVA 追跡者 神経接続 シンクロ率	 <p>14年の月と天文学的な経費をかけて建造された、民間企業職員が、特殊なNERVが所有する、使徒に対抗しうる戦力。</p>



EVAの操縦者を司る  
神経回路の調整システム

## EVAとの神経接続

EVAの起動、操縦を可能にするためには、EVAと操縦者の神経パルス（脳より発せられる微弱な電流）を双方向に伝達させることにより、まず神経回路を同調（シンクロ）させる必要がある。ただし、すべての神経回路を同調させるのではなく、主に人間の脳幹にあるA系列の神経核に電流を発生する神経のうち快感に関係が深いとされる「A+神経」を介した双方向の神経接続を成すことでEVAは初めて起動、操縦可能になるのである。なお、神経接続後のEVAは操縦者の意思により操縦可能とされているようだが、銃火器の使用などは、操縦桿を介した「インダクションモード」で管制する必要がある。

ちなみに、EVA各機には固有の神経パルスのパターンがあり、操縦者もそれに類似したパターンの持ち主でなければならない。その起動確率は0.000000001%と置われ、その確率の低さから09（オナイン）システムと揶揄されている。



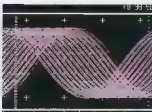
テストも受けずにEVA初回機に搭乗したシンジ。操縦できるのは、互いの神経パルスのパターンが酷似していたからに他ならない。

## 特記事項

## シンクロとハーモニクス

EVAの起動及び活動時において、NERV司令部ではEVAと操縦者の同調を意味するシンクロの他に、調和を意味するハーモニクスという言葉が使われることが多い。どちらも発達準備直前に数値が算出され、規定値に達していれば、EVAに発進の指令が下される。

シンクロはEVAと操縦者それぞれの神経接続の同調（同期）の度合を表す言葉。ハーモニクスはEVAと操縦者の神経接続における相合（まじり合い）を表す言葉と見られる。両者は共にEVAと操縦者の相がりを表す言葉であると考えられるが、EVA関連の資料は秘密事項であるため、その詳細は一部の職員のみが知ることとなっている。



EVAと操縦者のシンクロの割合は、シンクロ率という度数で表される。通常百分率で表される数値は、100%に近い方が高いと考えられている。

シンクロ（等）とは異なる、ハーモニクスはレベルで表現される。工業（値）と診断されるEVAの活動において特に支障はないよう。



## ■神経回路の同調を補助する装備／触媒

## ◆プラグスーツ

EVA搭乗時に操縦者が着用する戦闘服。体に密着する構造となっており、左胸のスーツファイトスイッチを押すと体型に合うよう膨張する。生命維持装置などの多様な機能を持つが、神経接続のサポートを行える機能がある。なお、神経接続は効率よく行なうためと思われるが、下着は身につけずに着用している。ちなみに、スーツを着用しなくてもEVAとの神経接続は可能であると考えられており、EVAのオートパイロット実験においては、プラグスーツを着用しない状態で実験が行なわれた。



## ◆インターフェイス・ヘッドセット

EVAとの神経接続のため、操縦者が頭部に装着するインターフェイス。その詳細は明らかにされていないが、EVAとシンクロする際にパイロットの神経パルスをピンクアップする重要な装置と考えられている。ただし、装着せずにEVAに搭乗するケースもなからずあり、EVAとのシンクロを回す上で必須の装置ではないようだ。なお、基本的な形状はカネーシュ型だが、惣流・アスカ・ラングレーのもののみは髪留め型であり、彼女がEVA搭乗時以外にもアクセサリーとして愛用している。

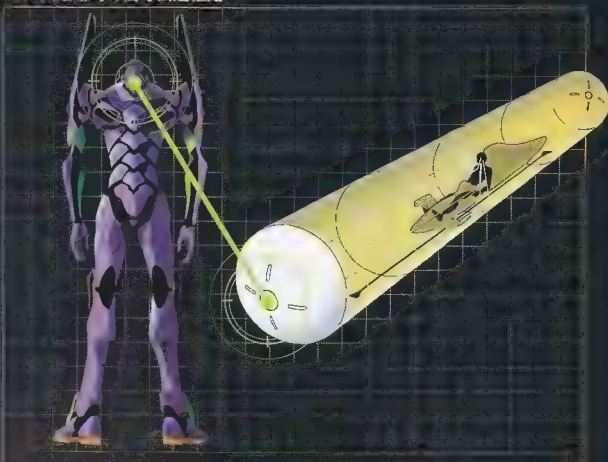


## ◆L.C.L.

操縦者の呼吸、衝撃吸収、神経伝達を助ける役割を担っているL.C.L.は、同時にEVAと操縦者の神経接続を容易にする働きも果たすとされている。その理由については、L.C.L.自体の効能とも、操縦者が無重力に近い状態に置かれて一種の安定意識状態（いわゆる「悟り」に近い状態と推定される）になるためとも考えられている。また、その組成式やメカニズムは解明されていない。また、NERV内部においてもその生成方法が不明であり、その詳細を知る者はごく一部であるようだ。



## EVA起動時の信号伝達経路



EVA起動時には、様々な接続手順をクリアし、操縦者とEVAの神経回路を同調させる。以降はインターフェイス・ヘッドセット、プラグスーツ、L.C.L.、オートパイロットを通じて両者の神経を双方向に交換、同調させるため、EVAに対する攻撃はすべて操縦者に伝わり、その痛みもまたフィードバックされる。なお、NERV内部の命令所から神経接続の調整ができるため、緊急時には強制的に接続を遮断する場合もある。



オートパイロットのショック・ピッチ位置を移動する（高度を下げる）ことで、神経伝達を強化することも可能。しかし、精神汚染の危険性も増すこととなる。





## その難がりがらもたらすもの

### EVAと操縦者のシンクロ

#### シンクロの影響

シンクロ率は数値が高いほどEVAを意思通りに操作可能とされている。だが、EVAと操縦者が感覚をはじめとした感覚を共有することになるため、必ずしも100%の状態が最適とはいえない。EVAに加えられた物理的刺激は、操縦者もシンクロ率に応じて感覚として捉えるものの、それが実際に負傷として現れることは原理的にはない。しかし、シンクロ率が高い場合、フィードバックレベルも同じく上昇してしまう。そのため、ダメージの度合によっては、最悪ショック死に至る可能性も懸念される。なお、特殊な事象ではあるが、シンクロ率が400%を超えると個体を形作ると思われる自我境界線が保てなくなり、操縦者はEVAに取り込まれるとも言われている。

第14使総理に対して、資料取調された資料は、物理法則を突破して受けければ、操縦者のアスチはショック死する可能性もあった。



シンクロ率が400%を超え、自我境界線を保てなくなったシンジ。その事は、当初エヴァリブの資料にも記載できなかった。

## 特記事項

### シンクロ率400%の正体

覚醒したEVA初号機に取り込まれてしまったシンジ。EVA開発中、自らが操縦者となったシンクロ実験で初号機に取り込まれたユイ。母子共に自我境界線を保つことができなくなったために、EVAに取り込まれた(あるいはL.C.Lと同化した)ものと考えられている。ユイの場合は定かではないが、シンジの場合、EVAとのシンクロ率は400%超を記録していったとされている。このことから、400%という数値がシンクロ率の実質的な限界値である可能性もある。ただし、この事象はEVA初号機がS'機関を取り込んで覚醒したために起きた事故であり、通常のEVA操縦時におけるシンクロ率の上限は100%と考えるのが妥当であろう。



EVA初号機に取り込まれたユイ。磁気レフトや巻木ナオコの手によってサルベージが試みられたものの、失敗に終わり隠れ入りとなった。

EVA初号機に取り込まれることなく覚醒したシンジ。サルベージ自体が失敗していたにも関わらず無事帰還できた理由は不明である。



エクストラシート

xtra Sheet

## 第14使徒

最強の戦闘力を持つ第14使徒ゼルエルのこと。量部より劣る強力な怪光線と、現状の脱出手段により攻撃を行なう。EVA試号機、EVA零号機の攻撃を歯牙にもかけずNERV本部へと侵攻するが、EVA初号機により阻止される。その後一時活動停止に陥らせた初号機のコアを破壊しようとするも、再起動した同機により捕食される。ゼルエルも参照。



A.T.フィールドを中和した上で試号機の射撃を受け、第14使徒はダメージを全く受けず撃たなかった。

## 第16使徒

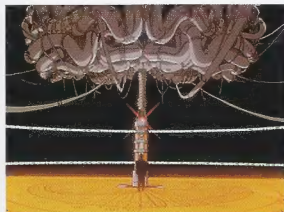
痛く二重確殺のような姿をした第16使徒アルミサエルのこと。EVA零号機の操縦者、綾波レイとの一次的接触を試みた。その過程で零号機との生体融合を図るが、同機の自爆に巻き込まれ消滅した。アルミサエルも参照。



使徒が人間に対し積極的な一次的接触を行なおうとしたという点において、第16使徒は興味深い存在であったといえる。

## 大深度地下施設中央部

NERV本部内の下層部にある施設、セントラルドグマを指す。ダメージプラザの製造施設があり、綾波レイを実験体としたダミーシステムの実験なども行なわれていたと思われる。



大豚のような容姿から伸びる人体サイズの試験管に入るレイ。ダミーシステムに関するデータ採取が、送られた身体を維持するための試験が、その目的は定かではない。

## タイタス・アンドロニカス

国連軍太平洋艦隊の一隻。シンペリン沈黙時、襲来した第6使徒ガゼルを捉えることができなかった。なお、「タイタス・アンドロニカス」はシェイクスピア初期の戯劇。

## 第7ケイジ

EVAを収容するケイジのひとつ。第5使徒ラミエルの脱却手段による攻撃を受けたEVA初号機を収容したほか、第11使徒イコルがNERV内に侵入した際にEVAが待機していたのも、この第7ケイジであり、メインで使われているケイジである様子。なお、非常用直通昇降機のR-20で直行できる。



観戦自衛隊がNERVに定めたにも初号機が脱走され、パークライトによって格納できないようにされた。

## 第7ケイジ直轄制御室

ヤシマ作戦の実施を決定後、葛城ミサトが指揮を執っていた場所。各ケイジには同様の制御室が置かれているものと思われる。



第5使徒ラミエルの加子楯を受け昏倒した観戦シンジが目覚めたこの連絡室、ミサトはここで受けている。

## 第7素敵衛星

n航空機による第10使徒サハウィエルへの攻撃風景を、最大画角で撮影していた衛星。これにより、n兵器はサハウィエルに対して効果を奏できなかったことが判明している。

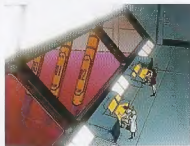
## 第7次建設

第3新東京市建設計画の最終段階。完成予定日はかなり遅れていたようで、目的が立ったのは第12使徒レリル殲滅後であった。これにより迎撃システムはようやく完成を見るものの、第3新東京市完成の祝賀パーティーは催されないと、加村リョウジがぼやいていた。

## 第7実験場

NERV本部内にある実験場のひとつ。主にEVA操縦資格者のハーモニクス試験、シミュレーションのデータ採集が行なわ

れていると考えられる。なお、実験に際し用いられているのはテストプラグ。



EVAのデータ収集はよく第7実験場で行われているため、数ある実験場の中で最も多く使用される場所なのではないかと推される。

## 第7使徒

分離、合体能力を備える第7使徒イスラフェルのこと。甲と乙の2体に分離してEVA初号機及びEVA試号機を撃破する。その後、両2機との再戦闘において二点同時遠距離攻撃を受けコアを破壊された。イスラフェルも参照。



比較的人型に近い形状をしていたが、同時に2体の完全な合体に分離、再融合できるという特性は、既存の生物には有り得ないものである。

## 第7世代有機コンピュータ

有機物で構築された論理回路を用いているコンピュータ。このハードウェアに、ソフトウェアである人格移植OSを用いて思考させるシステムがMAGIである。なお、シリコンなどの半導体素子を用いたコンピュータが第4世代。

## 第2隔離施設

南極調査室内にある隔離施設のひとつ。セカンドインパクトのショックにより失語症になっていた葛城ミサトは、ここに隔離されていた。2002年、国連のセカンドインパクト第1次調査団のメンバーだった冬月コウジが訪れている。



16歳当時、未だ隔離施設にいたミサト。少なくとも62年間、彼女はこのような施設に収容されていたことになる。

## 第2ケイジ

第15使徒アラエル戦後、EVA試号機が収容されたケイジ。第67ルートをを用いて回収された。

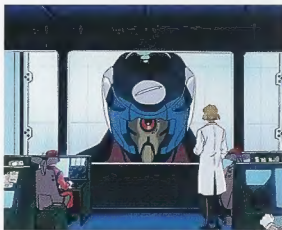


# E

エクストラシート  
xtra Sheet

## 第2次稼働延長試験

第5使徒ラミエルとの戦闘から復帰後、改修を施したEVA零号機を使用した実験。その名称から、アンビカール・ケプラーが断続した際の活動限界を延長するための実験と思われるが、詳細な内容は不明。



変動効率が理論値より0.008低かったため、相互変換も0.01下げて再実験を行っていたが、NERVを含む第3新東京市の大停電により試験は中断された。

## 第2次ジオフロント攻防戦

第14使徒ゼルエル機の名称。ジオフロント内部にまで攻め込まれ、NERV本部最大の被害を受けた戦闘である。この戦いでEVA零号機、EVA式号機が破壊、第1発令所は破壊され使用不可能となった。なお、ゼルエル以前にジオフロントへ侵入を果たした使徒はイロウルのみ。従って第1次ジオフロント攻防戦は対イロウル戦と推測される。

## 第2次整備計画

EVAの建造配備計画と考えられる。第14使徒ゼルエル機滅後、世界7ヶ所でEVA13号機までの建造が開始、予算も倍増された。この情報を上海経由で得た日向マコトは、第2次整備に向けて予備戦力の増強ではないかと葛城ミサトに報告している。しかしながら、実質は人類補完計画に必要なEVAシリーズを増えるための計画であったと推測される。



SSTの中で見てゲンドウと接触した男は、第2次整備計画により8号機から建造に参加すると語っていた。

## 第2次選都計画

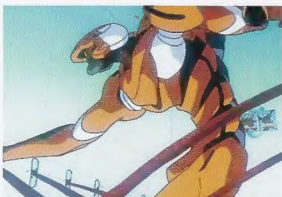
日本の首都を第2新東京市から第3新東京市へと遷都する計画。この計画により、第3新東京市の建設が2005年に着工される。

## 第2次直上会戦

第4使徒シャムシエルとEVA初号機の戦闘の名称。人類補完委員会特別召集会議による使徒の総括において用いられた。この総括では、鈴原トウジの作文（抜粋）と洞木ヒカリの手記（一部）といった第3新東京市の肉声と検証材料とされた。なお、原形を留めた使徒のサンプルをNERVが入手した初の戦闘といえる。

## 第2実験場

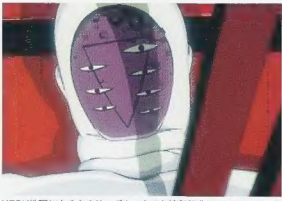
NERV本部内にある実験場のひとつ。主にEVAの起動実験に使用される場所であると思われる。そのため、EVAが制御不能となった場合を想定した強固な造りとなっており、特殊ベークライトの硝子機機なども備え持つ。EVA零号機の起動実験、および再起動実験はここで行なわれている。なお、この第2実験場の管制室は、起動実験の期に暴走した零号機により破壊され、しばらく使用不能となっていた。



第2実験場で行なわれた実験が全うされた場面は見られない。零号機の再起動実験も第5使徒ラミエルの襲来により中断されている。

## 第2使徒

地球上の生命の始源とされるリスが第2使徒だと考えられるが、定かではない。NERV本部の最深部、ターミナルゾムに設置される存在。巨大な十字に纏いられ、顔面にはゼーレのマークと同じ七つ目の仮面が被せられている。



NERV地下にあるものはアダムであると情報提供されていたが、実際のところはリスであった。

## 第2支部

米國ネバダに位置するNERV支部のひとつ。ドイツで修復したS2機関の搭載実験中の事故により、EVA4号機ならびに半径80m以内の関連研究施設全てが破壊された。なお、この事故は死滅文書書にはないシナリオだったらしく、ゼーレによって行動表の修正が必要な事案だったらしい。



この作の定価における事故は、爆発などではなく完全な消滅であった。これを赤木リツコはディメンションの海に沈められたものと同様とした。

## 第22警戒群団御前崎S.S.

第9使徒マトリエルの襲来を感知した自衛隊の検閲。ここでは観測により、マトリエルの上陸予定点を旧熟海方面と割り出している。なお、御前崎は静岡県中西部に位置し、駿河湾の湾口にある重要な港を有する。



この観測情報を通り、舟中の船長前原初命等はマトリエルの侵襲状況をリアルタイムでモニターしていた。

## 第2循環パイプ

洗岡山での使徒捕獲作戦において、火口に潜ったEVA式号機を冷やすために用いられる冷却液循環パイプの内の1本。限界深度をオーバーする深度1,400mの地帯で亀裂が発生した。

## 第2新東京市

長野県旧松本市に位置する、2015年時点での日本の首都。2000年9月20日、新型爆弾が投下され50万人の死者が生じた上、海抜の上昇により水没し壊滅した旧東京の復興を断念した日本臨時政府は遷都を決定、2015年に第2新東京市が着工、復興は急速に進み、2003年初頭までは首都としての役割を十分に果たすようになったという歴史が、破産シンの後教科書に記載されている。なお、2004年には第2遷都計画が国会で承認され、富士箱根に第3新東京市の建設が進んでいるものの、2015年時点でも第2新東京市の建設は断念されたままであり、変更はない。また、国連本部も第2新東京市へと移動している。



官報館を始めた官庁も、2015年時点ではまだ第3新東京市ではなく第2新東京市に置かれている。

## 第2新東京市第三中学校

長野県の第2新東京市にある中学校。第17使徒タリスが派遣せられる18ヶ月前、4人の少年少女たちが講堂内で流美四重奏の練習演奏を行っていた。曲目はKanon-Dur。練習開始22分前にシンジが、10分30秒前に陽気な少女が、5分43秒時に寡黙な少女が、定期ギリギリに最後の少年が集い、練習が開始される。



講堂に集まった少年少女たちは、それぞれ陣羽を添ませパヘルベルのカノンを演奏する。

## 第2東京大学

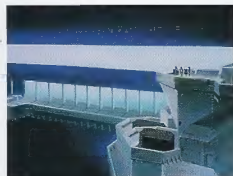
長野県の第2新東京市にある大学。第2新東京市とほぼ併用を同じくしてつくられたと思われる。葛城ミサトと赤木リツコが通っていた。みたりはここに在学している時に知り合い、友人となる。また、加持リョウジと彼女らが出会ったのもこの頃になるが、彼もこの大学に在学していたかどうかは不明。NERV内の実力者が揃って在学していたことから、入学にはかなり高い学力を求められる大学であると推測される。



ミサトとリツコが初めて会った場所とは大学構内の学室であり、ミサトの方から声をかけたようだ。

## 第2発令所

NERV本部にある予備の発令所。第1発令所が第14使徒サングラフオンと、破壊決定は時間の問題となる。そのため、以後はMAGIシステムを移植して第2発令所を本格的に使用することとなった。



第1発令所内設置のMAGIシステムを移植して第2発令所として使用する。作業者は、MAGIシステムを操作している。MAGIシステムは、MAGIシステムを移植して第2発令所として使用する。

## 耐熱用プラグスーツ

耐熱耐圧仕様のプラグスーツ。一旦すると普通のプラグスーツと変わらないが、右半身にあるスイッチを押すことにより、救命胴衣のように膨張するつくりになっている。第8使徒サンダルフォン編作戦において浅間山火口でEVAが暴行する際に、惣流・アスカ・ラングレーが着用。局地組用のD型装備を装着したEVA試号機に搭乗した。



耐熱仕様とはいえ高温のマグマ内では体温適度はかなり上がる模様。その際にアスカは「プラグスーツというよりサウナスーツ」とこぼしていた。

## 第8格納庫

NERV本部内にある格納庫のひとつ。急造されたEVA用耐熱光波防弾兵器が置かれていた。



キャットウォークのある格納庫内のスペースはかなり広く、EVA用耐熱光波防弾兵器は無造作に立てかけてある。

## 第8管区

NERV本部面のエリアのひとつ。冬月コウゾウが拉致された際、消息を絶った場所。本部の所内であるため警備は厳重だと考えられる。その中で訓練2課を陣に巻き、前司令という要人の拉致を成功させたのは、ひとえに加持リョウジのスキルの賜物であろうか。

## 第8使徒

浅間山火口内の深さ1,300m付近に発見された第8使徒サンダルフオンと、成体前の状態で発見されたため、NERVにより捕獲された際、突如として羽化したため発覚された。羽化前の蛹のような状態のときは、覆元され硬化ベークライトで固められたアダマとされるものと推測している。サンダルフォンも参照。



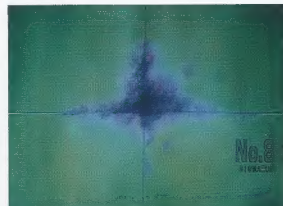
羽化後の姿は、カンパリア配の生物アモロカリスと鳥類のカレイを足したような姿をしている。

## 第87経路

緊急時の退避経路。戦術自衛隊がNERV本部に襲来した際、セントラルドグマ第1層までの全隔壁を閉鎖しつつ本部の非戦闘員員の退避のためにアナウンスされた。

## 第87タンク壁

87th PROTEIN WALL。シグマユニットフロアD-17内にあるタンク壁のひとつで、プリノーボックスの上に位置する。この壁に現れた侵食らしきものを調査シグルが探知し、冬月コウゾウに報告。侵食部分には温度と伝導率の変化が見られ、発見された際はほとんどが原因の単なる劣化と判断されたが、実は第11使徒ワウルの侵入によるものであった。なお、ずさんな工事によるものと判断されたのは、このタンク壁があるB棟が、第3使徒サキが襲来した後に急ぎ工事を行ったためである。そのため工期が60日近く圧縮されたらしい。



このタンク壁に侵食が発見された時には、使徒の侵入だと誰も想像すらしなかったようである。

## 太平洋艦隊

国連の海軍に所属する艦隊。艦船の多くはセカンドインパクト前に就役した老朽艦ばかりだが、ニミッツ級原子力空母オーバーザホーレンボウを旗艦とし、アドミラル・クラスネオフ級空母、アイワフ級駆逐艦、イージスシステム搭載の巡洋艦、フリゲート等を擁する大艦隊。アメリカ、ロシア、日本など旧東西陣営の入り交った国連所属国間の艦や艦隊で構成されている。NERV第3支部よりEVA試号機及び補給線等の惣流・アスカ・ラングレーを移送する際、ドイツのヴルヘルムスハーフエンより新機演習場までの護衛任務に就く。旗艦の艦長は当初、大規模を誇る太平洋艦隊がNERVのために動くことに対し反感を見せていたが、旧イーストにおいて第6使徒ガイルと遭遇した際には葛城ミサトが提示した作戦に協力。それにより使徒の破壊には成功す



